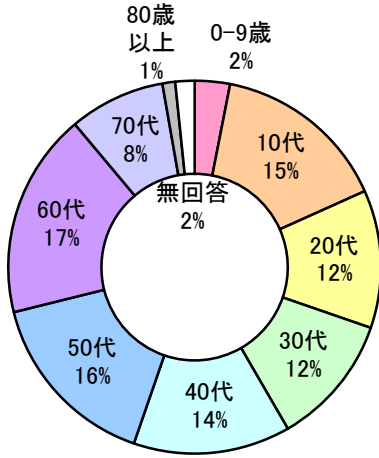


特別展「模写・模造と日本美術」アンケート集計結果

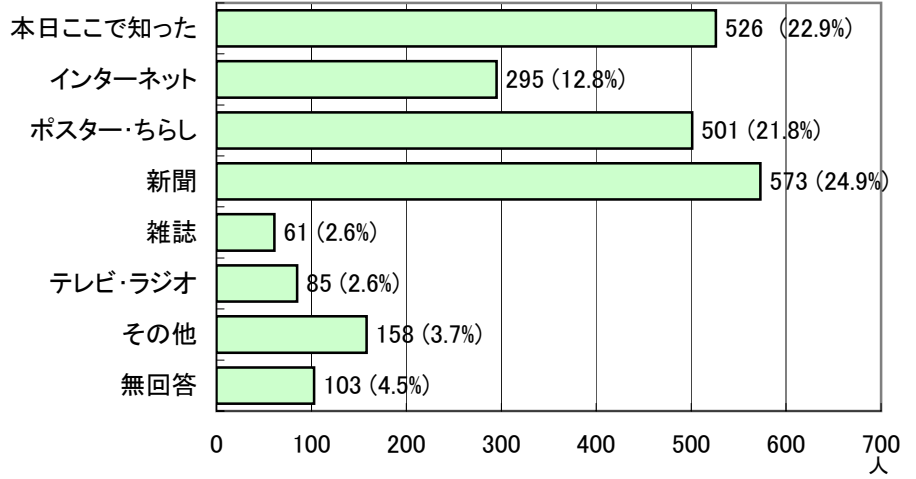
開催期間：平成17年7月20日～9月11日

総回答者数：1,885人（入館者数 104,786人 アンケート回収率 1.8%）

①年齢層



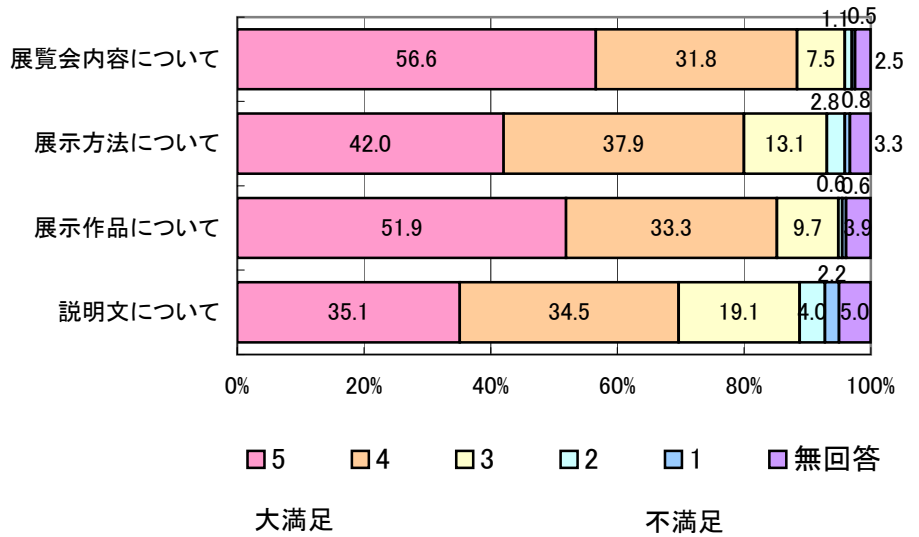
②認知経路(複数回答)



③印象に残った作品

1位 玉虫厨子	105人
2位 無著立像	79人
3位 螺鈿紫檀五絃琵琶	50人
4位 百済観音像	45人
5位 吉祥天立像	33人

④展示に関する満足度



⑤主な意見・感想

- ・模写の実演コーナーはとてもよかった。子供にも効果が大きいと思う。この種の取り組みをこれからも大いに取り入れてください。(60代・無職)
- ・「こども向け」と期待したよりは難しかった。小3の娘には読めない展示が大部分でした。(40代・主婦)
- ・現物がないと一般の観覧者にとっては普通の展覧会を見るのとあまり変わらない感覚なのではないでしょうか。写真でも良いから展示してほしい。(30代・自営・自由業)
- ・模写模造は普段自分もしたりするが、大観などの巨匠たちもしていたのだなと感動した。そういう作品はあまり見る機会がないので、とても面白かった。(20代・大学生)

「国立博物館は本物を展示する」という暗黙の了解の中で「模写・模造」のみで構成した本展覧会は、「良かった」「とても良かった」との回答があわせて約88%、特に展覧会内容については「とても良かった」が約57%と高い評価をいただいています。

また、展覧会と同じ展示室内に併設したワークショップ(親と子のギャラリー:「うつす・まなぶ・つたえる」)では「子供よりも大人のほうが夢中になってやっていたような気がします。」など良かったとする意見が多くありました。

古美術に関心の高い年代に偏らず、子供から高齢者まで幅広い層の方に見て楽しんでいただけ、また展覧会の趣旨であった文化財を「つたえる」という模写模造の大きな役割についても、多くの方にご理解いただけたものとありがたく受けとめております。

